

(別紙1)《会派用》

平成30年11月7日

狭山市議会議長  
新良 守克 様

会 派 名 公 明 党  
代表者氏名 加 賀 谷 勉 ⑩

## 視 察 報 告 書

このことについて、別紙のとおり、報告がありましたのでご報告いたします。



代表者 加賀谷 勉 様

視察者(代表)氏名 齋藤 誠

## 視 察 報 告 書

このことについて、次のとおり報告します。

1 期 間 平成30年10月17日～平成30年10月19日(2泊3日)

2 視 察 先

北海道 室蘭市・苫小牧市・石狩市・小樽市総合博物館

3 調 査 事 項

(1) 室蘭市・・・室蘭工業大学との包括連携協定について

(2) 苫小牧市・・・福祉トイレカー「とまレット」(移動式トイレ)について

(3) 石狩市・・・こども未来館「あいぽーと」について

(4) 小樽市総合博物館の運営について

4 視察参加人数 3 人

参加者は次のとおり

磯野 和夫 ・ 加賀谷 勉 ・ 齋藤 誠

5 調 査 概 要

別添資料のとおり

# 《 室 蘭 市 》

市制施行	1922年（大正11年）8月1日
人 口	84,991人（平成30年3月31日現在）
世 帯 数	45,922世帯（ 同上 ）
面 積	80.88 km <sup>2</sup>

## 【市の概要】

北海道の南西部に位置し、西に向かって突出した馬蹄形の絵鞆半島を中心に市域が広がっている。南東は太平洋に面しており、白亜の地球岬灯台を中心に約14kmの断崖絶壁が連なっている。北隅には、海拔約911mの室蘭岳から湾に臨むチマイベツ川を境に、西は伊達市、東は鷲別川を境に登別市に隣接している。背後地には、東北以北、随一の洞爺・登別温泉郷がある。

1796年（寛政8年）に英船プロビデンス号入港、1872年（明治5年）の開港以来、天然の良港を活かし、海陸流通の要衝地として、また、製鉄、製銅、石油精製、造船などを中心に、北海道屈指の工業都市として発展してきた。そして、2002年に「ものづくりのまち」を宣言した。

## 【視察地選定理由】

地元自治体と大学の連携については、当市においても、市内の大学、短大との連携でさまざまな取り組みをしているが、他市における連携取り組みを参考にし、計画を立てた。特に、室蘭市と室蘭工業大学との包括連携は、大学が工業大学との立場から、その取り組みについて詳しく伺いたく、また当市にとっても大いに参考にすべく選定したものである。

## 【調査事項】（視察項目）

「室蘭工業大学との包括連携協定について」

■ この事業を始めるきっかけと概要

- ◆ 昭和 24 年に国立大学として設置後、大学と市はさまざまな分野で連携・協力関係を築いてきた。そして一層の連携促進を図り、大学の地域貢献、幅広くまちづくりに大学の資源を活かしていくため、平成 18 年に包括連携協定を締結した。
- ◆ 各種審議会委員、共同研究や地域振興プロジェクトの推進など、昨年度末で約 50 程度の連携事業を実施しており、室蘭市の行政運営やものづくり企業の活性化など、まちづくりの種々の分野で、大学の力が発揮されている。
- ◆ 平成 27 年度には、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」に採択され、室蘭工業大学が中心となり、道内ものづくり系大学・高専、経済団体、金融機関、自治体が連携し、卒業生の北海道内就職率の 8% 向上を目標に取り組みを進めており、室蘭市も立地自治体として参画している。

■ 事業実績・成果

◆ 平成 29 年度実績

【事業区分】

No.	事業名	内 容	H28 実施	H29 実施
1	まちづくり	地域づくり・まちづくりの推進	17	19
2	観光振興・産業振興	観光振興や産業振興など地域経済の発展	17	17
3	環境保全・防災	環境の保全及び防災対策の推進	4	4
4	保健・医療・福祉	保健・医療・福祉の向上	2	3
5	住民との協働	住民との協働の推進	1	1
6	教育文化・生涯学習	教育・文化の振興、生涯学習の推進	12	10
7	国際化・国際交流	地域の国際化・国際交流の推進	1	1
8	その他	その他	3	7

【役割・位置づけ】

No.	分類	内容	H28 実施	H29 実施
1	委員	審議会・協議会等へ委員として参加	24	28
2	研究	大学との共同研究・委託研究等	1	1
3	共同	大学と共同実施	14	14
4	機能	大学の施設・機能との連携（知的財産）	12	10

◆ 平成 29 年度取り組み成果

【事業区分別取り組み】(事業区分別に主な連携事業を記載する)

No.	事業区分	担当課	連携事業名	内 容	決算額 (千円)	役 割	分類	大 学 名 (学部・教授名等)
1	まちづくり	企画課	室蘭市総合戦略推進会議	総合戦略の策定・検証に関する協議を行う	30 (報償費)	学識経験者として	委員	室蘭工業大学 もの創造系領域 清水一道教授 くらし環境領域 中津川誠教授
2	まちづくり	I C T 推進課	オープンデータ利活用推進事業	大学院の授業に市職員を研修として派遣し、市のオープンデータを活用した地域課題を解決するためのアイデアを検討する		共同実施	共同	室蘭工業大学 情報電子工学系学科情報システム学コース 須藤秀昭准教授
3	観光振興・産業振興	観光課	ネイチャーウォッチング事業	小中学校の総合学習として実施してきたウォッチングを、室工大の留学生・看護学院の学生を対象に実施。	180 (委託経費)	学生がウォッチングに参加・体験。大学で参加者の取りまとめ。	共同	室蘭工業大学 国際交流センター
4	観光振興・産業振興	テクノセンター	戦略的基盤技術高度化支援事業	耐水素脆性などに優れた高圧水素用金属材料を用い、燃料電池自動車に水素を充填するディスプレイ用フレキ	44,402 事業費総額	大学との共同研究	研究	室蘭工業大学 工学研究科もの創造系領域機械工学ユニット 藤木裕行教授 墨丸谷政志名誉教授

				シンプルホースを開発する。				
5	環境保全・防災	環境課	室蘭市環境審議会	環境基本計画に関する こと、環境の保全及び 創造に関する基本的事項 について調査審議する。	13 報酬・費用 弁償	学識経験者として	委員	室蘭工業大学 くらし環境系領域 中野博人教授 ひと文科系領域 亀田正人准教授
6	保健・医療 福祉	市立病院 総務課	札幌医科大学と室蘭市の 連携協定	両者の自主性を尊重した 連携関係のもとで相互に 協力し、住民の健康と福祉 の向上並びに人間性豊かな 医療人の育成に寄与する。		連携協定	機能	札幌医科大学 学長
7	住民との協働	ICT 推進課	My City Report 実証実験	道路等公共施設の不具合等 を市民から通報してもらうし くみを実装した実証実験から 参加することで市が求める 機能の実装を働きかけること が可能であるこ		共同実施	共同	東京大学 関本義秀准教授

				となどから参加する。				
8	教育文化・生涯学習	生涯学習課	ロボットサッカー公開実演	科学への興味と基礎的な知識啓発のため、入館者の体験事業として実施。	108 指定管理者管理費用に含む	体験事業の共同実施 サッカーロボ無線操作体験	共同	室蘭工業大学 学生サークル 「夢工房」
9	教育文化・生涯学習	図書館	室工大附属図書館との連携	市内における図書サービスの向上		蔵書の相互貸借等	機能	室蘭工業大学 附属図書館
10	国際化・国際交流	総務課	室蘭市国際交流推進協議会	国際交流に係わる情報収集・情報交換、各種親善交流、留学生・研修生への支援、国際交流推進の啓発	450 協議会運営補助金	協議会加盟団体として	委員	室蘭工業大学 空閑良壽学長

### ■ 市民等からの評価・意見

- ◆ 大学連携の具体的取組が見えない、など情報発信に関する意見、学生のまちづくり参加の促進、市内定着に対する意見などが寄せられている。

### ■ 今後の課題

- ◆ 学生の市内定着に向け、どう取り組んでいくか。
- ◆ 都市計画、土木・建築分野以外で、どう連携促進していくか。
- ◆ 国立大学の再編、定員見直しなど国の動向を踏まえた将来の展望

### 【主な質疑応答】

- ◆ (Q) 地域のお祭りに、どのように対応しているのか。  
(A) 「みなと祭り」などに、サークル等でブースを出して参加している。
- ◆ (Q) 近隣市も室蘭工業大学との連携をしているのか。  
(A) 登別市、伊達市ともそれぞれの連携を通して、相互の発展及び地域社会の発展に資すること目的に、諸分野において、個別に連携・協力するための連携協定を締結している。

### 【所感】

地域づくりやまちづくり、観光・産業の振興などの分野での、連携・協力が例年、多くを占めている。やはり取り組みやすいテーマなのかもしれない。

室蘭市の審議会や各種連絡会議に、室蘭工業大学の教授、准教授などが委員として参画しているケースが多くみられた。室蘭市としても、専門家の意見や提言を聞ける、またとないチャンスであると感じる。市と大学が連携を通して、相互の発展や地域社会の発展に貢献できうる取り組みだと思った。

包括連携協定書にも記されているが、市の大部分の分野において連携が示されており、当狭山市においても大変参考になった次第である。



# 《 苫 小 牧 市 》

市制施行	1948年（昭和23年）4月1日
人 口	172,737人（平成30年3月31日現在）
世 帯 数	87,033世帯（ 同 上 ）
面 積	561.57 km <sup>2</sup>

## 【市の概要】

以前、苫小牧川が流れる一帯を、当時の河川名であったマコマイ（アイヌ語で「山奥に入っていく川」と呼んでいた。沼のあった旧樽前山神社付近一帯はアイヌ語で沼の意味がある「ト」の字をつけて「ト・マコマイ」と呼ばれるようになり、今日の苫小牧となった。

太平洋に臨み、気候冷涼で積雪も少ない苫小牧市は、1963年、世界初の内陸掘込港湾である苫小牧港（国際拠点港湾）が築かれ、臨海工業地帯を形成した。紙・パルプのほか、石油精製、自動車部品などの産業が集積した。また、北海道の空の玄関口である新千歳空港や高速道ICにも近く、交通の便もよいところである。

さらに、財政基盤強化のため、人材・資材・資金などの投資を呼び込むための近未来に向けた成長戦略として、ものづくり産業のさらなる集積、臨海ゾーンにおけるロジスティクスの構築、臨空ゾーンにおけるIR（カジノを含む統合型リゾート）などの国際観光リゾートの展開を掲げ、その取り組みを進めている。

## 【視察地選定理由】

障がい者対策の充実のために、全国で初の移動式トイレを導入した苫小牧市に伺い、現物車両を拝見し、当市の障がい者支援の参考にしようとして選定した。

障害をお持ちの方々が、各種イベントに参加する際に、行く先でトイレがないと、参加を控えてしまうケースが多々見受けられる。特に、屋外でのイベントでは、なおさらである。障がい者の社会参加の機会を今後増やすためにも、移動式トイレは大いに参考になる。

## 【調査事項】（視察項目）

「福祉トイレカー “とまレット”（移動式トイレ）について」

### ■ 概要

- ◆ 障がい者を中心とした車椅子ユーザーの社会参加の促進を主目的に、苫小牧市の公用車として整備。
- ◆ 主に、苫小牧市内で実施される祭りなど、集客性の高いイベントに出動。
  - ★とまこまい港まつり、とまこまいスケートまつり
  - ★スポーツ大会、町内会の催事
- ◆ 全国の自治体として初めての導入。

### ■ 特徴

- ◆ 小回りが利くサイズ（貨物自動車ベース）
  - ★場面、場所を選ばずに運用が可能である。
  - ★運転手は、普通免許で OK。
- ◆ バイオトイレ搭載（衛生面、環境面等に優れる）
  - ★水の代わりに“おがくず”（木のくず）を使い、微生物の力を利用して、排泄物の分解をおこなう。
  - ★便の処理に、水を一切使用しないので、節水にも役立ち、冬場も凍結の心配がない。
  - ★使用済みのおがくずは、農業の肥料として使用するので、環境性能にも優れている。
- ◆ 車椅子ユーザーの利便を考慮し、広々としたスペースと機能を確保
  - ★安定性の高い昇降用リフトを装備している。
  - ★衛生機能と耐久性に優れた素材を採用し、清潔感を確保した。
  - ★折り畳み式ベッド、エアコン、蓄電池、太陽光パネル等を装備している。

### ■ 車両

- ◆ 納車日 平成 28 年 12 月
- ◆ 車両価格 約 1,860 万円
- ◆ 全長 約 5.4m
- ◆ 全高 約 2.9m

- ◆ 全 幅 約 1.9m

## ■ 胆振東部地震の対応として出動

- ◆ 設置場所 : 厚真町総合福祉センター（避難所設置）
- ◆ 設置期間 : 平成 30 年 9 月 8 日（土）13 時から 9 月 14 日（金）14 時まで
- ◆ 体 制 : 24 時間体制（9 月 13 日（木）は 22 時まで） 職員 2 名で対応
- ◆ 利 用 者 : 障がいのある人、高齢者、妊産婦など のべ 211 名
- ◆ 利用者の声 : 「地震があった時、ちょうど起きてコーヒーを飲んでいました。激しい揺れでカップが飛び、どこにいったかわからない。家の中は、家具などが散乱し、それまで寝ていたベッドも、崩れてきた物で埋まりました。左半身が不自由なので、もし起きていなかったらケガは免れませんでした。避難所の前には、苫小牧市が障害者用のトイレを用意してくれて、24 時間使えるのでありがたい」（54 歳・男性） 《H30.9.16 付 朝日新聞より》

## ■ 2018 年度北海道福祉のまちづくり賞を受賞

- ◆ 福祉的配慮に優れた事例を道民に紹介し、普及啓発を図ることを目的としている。
- ◆ 第 20 回目の今年度は、福祉用具部門で、「とまレット」が受賞
  - ★車椅子利用者が、トイレの心配をすることなく、行動範囲を広げる大きな役割を果たしていることが高く評価された。

## 【主な質疑応答】

- ◆ (Q) 「とまレット」の利用実績は。
  - (A) 苫小牧市の主要なイベントや町内会の夏祭り、スポーツ大会などに出動し、車椅子利用者などトイレに不便を感じている方々に利用されており、当初の目的が達成された。平成 29 年度は年間 30 回、出動した。
- ◆ (Q) 管理を清掃会社に委託しているとのことだが、駐車場はどうしているのか。
  - (A) 市役所前の福祉ふれあいセンターに、常時置いてある。

## 【所感】

福祉トイレカーは、障がいのある方や高齢者などの車いす利用者が、外出時のトイレの確保に大きな悩みを抱えていることを背景に整備された次世代型福祉車両である。

実際に車両に乗ってみて感じることは、障がい者や車いす利用者等の目線で、整備されている点である。昇降用リフトが装備されていたり、便座に座った際の位置を確認するための鏡を設置したりなどと、利用しやすさにもこだわったデザインを取り入れている。

このような福祉トイレカーは、苫小牧市に1台しか整備されていないが、複数台整備されると障がいのある方々には喜ばれるにちがいない。

# 《 石 狩 市 》

市制施行	1996年（平成8年）9月1日
人 口	57,436人（平成30年3月31日現在）
世 帯 数	27,128世帯（            ”            ）
面 積	722.42 km <sup>2</sup>

## 【市の概要】

市名の「石狩」は、市を流れる石狩川からできた名前で、アイヌ民族のことばで石狩川を指す「イシカラベツ」に由来している。その意味は「曲がりくねって流れる川」また「神様がつくった美しい川」と言われている。

石狩市は、札幌市の北側に隣接し、石狩湾に臨む水に恵まれた環境にある。江戸時代初期には、河口部流域が交易を行う範囲に指定されたことや交通の要所であったことから、西蝦夷地の中心地として重要な役割を果たしてきた。近年は、石狩湾新港をベースにした国際的な文化・経済の拠点として、めざましい発展を遂げている。

北海道の中でも温暖で、四季の変化に富み、台風の影響も極めて少ない。対馬海流の影響による海洋性気候で、春から夏、秋にかけてはしのぎやすく、気温格差もそれほど大きくない。

60年代以降、札幌市のベッドタウンとして人口が増加。石狩湾新港建設により、流通関連施設などの企業集積が進み、札幌圏の北の玄関口に変貌。今後も、国内外との経済交流の物流基盤として飛躍的発展が期待されている。

## 【視察地選定理由】

石狩市のこども未来館は、子どもたちの健全育成のために運営され、子どもの未来に夢が持てるように、そして多彩な催しものも用意されているようである。そのような児童館をぜひ視察したく、選定したものである。

そして、狭山市の児童館運営に大きく参考になるものと考えている。

【調査事項】（視察項目）

「こども未来館（あいぼーと）について」

■ 施設概要

◆ 施設規模

① 敷地面積	3,571.39 m <sup>2</sup>	
② 建築面積	1,024.91 m <sup>2</sup>	
③ 延床面積	991.46 m <sup>2</sup>	
④ 構造	鉄骨造、平屋建て	
⑤ 事業費	296,818,000 円	※平成 22 年度建設費関係分
● 建築費	273,304,500 円	
・ 建築主体	215,880,000 円	
・ 電気設備	39,123,000 円	
・ 機械設備	18,301,500 円	
● 備品購入費	14,785,000 円	
● その他	8,728,000 円	※消耗品、付帯工事、委託費など

◆ 環境への配慮

環境に配慮する建物ということで、建物が存続する間に要する総コスト全体を低減し、また、建物から排出される CO<sub>2</sub> が削減できると同時に、管理費全体の負担を減らすことができることをめざす。

建設コストから始まり、今後 30 年間の、ランニングコスト、メンテナンスコストを試算し、以下について配慮した。

- ① 壁面や屋根の高断熱・高気密  
暖房負荷を削減し、暖房に使われるエネルギーを削減する。
- ② トップライトの設置  
自然光を導き、照明エネルギーを削減。排気窓から空気の流れを促す。
- ③ オープンな一体空間  
一体感ある大きな原っぱのイメージで、風や光が空間全体に広がる。
- ④ 外気の導入  
夏の暑さ対策としての自然換気を確保し、冷房に頼らず快適性を確保。
- ⑤ 床暖房の設置  
全館床暖房とし、少ないエネルギーで暖かい環境を確保。
- ⑥ 床下ピット  
設備配管やメンテナンスを容易にするためのスペースの確保。
- ⑦ 建物軽量化による基礎の軽減  
鉄骨造により建物を軽くし、基礎や杭を小さく計画する。
- ⑧ 小型風力発電・太陽光発電

環境教育の一環として設置。

※全面ガラス貼りなので、暑さ対策を講じる必要があり、その対策として、ブラインドでの制御をしている。

#### ◆ 事業運営体制

- ① 運営形態
- ・ 児童センター運営事業  
指定管理【特定非営利活動法人（スタッフ 4 名）】  
指定期間 平成 30 年度～平成 33 年度（4 年間）
  - ・ 放課後児童健全育成事業（定員 50 名）  
業務委託【特定非営利活動法人（スタッフ 4 名）】
  - ・ 地域子育て支援拠点事業（一般 6 日型）
- ② 指定管理料
- |            |           |
|------------|-----------|
| ・ 平成 30 年度 | 54,666 千円 |
| ・ 平成 31 年度 | 54,819 千円 |
| ・ 平成 32 年度 | 54,971 千円 |
| ・ 平成 33 年度 | 54,971 千円 |

#### ◎ 指定管理者の運営によるメリット

児童館の建物や運営のみの管理であれば、市職員でも可能であるが、当該施設の指定管理者は長年、石狩市において子育て施策の中心となって活動してきた団体である。当該団体が持つノウハウを児童館運営に活用させてもらうことにより、児童館を利用する子どもたちの立場に立った児童館運営が可能となっている。あくまでも経費削減が目的ではない。

### ■ 施設設置の経緯、効果

#### ◆ 建設の背景

##### ① 既存児童館の代替施設の確保

総合保健福祉センター内で開設していた市直営児童デイサービス事業が、利用者の増加に伴い施設が狭くなり、同センター内で実施の児童館のスペースを使用することになったこと。また、運動場として使用しているスペースが、同センター行事が多いため使用できる日数が減少し、児童館としての機能が不十分な状態であったため、代替施設の確保が求められていた。

##### ② 既存放課後クラブの代替施設の確保

建設地区の小中学校内で開設していた放課後児童クラブが、同校の特別支援

学級児童数の増加に伴い、同クラブが使用していた 2 教室が必要となり、代替施設の確保が求められていた。

### ③中高生の居場所づくり対策

学童期を過ぎると居場所がなくなると感じる子どもが多く、平成 22 年度からスタートした次世代育成支援行動計画の後期 5 か年において、子どもの居場所づくり対策として、特に中高生の居場所づくりが重要施策として位置づけられ、子どもたちが主体的に活動する場を提供することを目的として、これらに対応できる機能、また前述の代替施設機能も併せ持った大型児童センターとして整備することとなった。

## ◆ 市民意見等の反映

### ①市民会議の設置

建設するにあたって、ハード・ソフト両面の観点から、利用する子どもたちにどのような施設がよいのか、また、建設の是非も含めた話し合いの場として、学識経験者等を中心に市民会議を設置した。

### ②パブリックコメントの実施

### ③児童等にアンケートの実施

実際に施設を利用する子どもたちの声を計画に反映するために、建設予定地域の対象学区の全児童や児童館を利用している児童、また市内児童館及び放課後児童クラブの児童指導員を対象にアンケートを実施した。

## ◆ 効果

○地域の子どもの拠点施設として、多くの異年齢児童に居場所・活動場所・生活の場として利用されており、また総合的な放課後等の対策が推進されている。

○登校していない、また、したくてもできない児童生徒のための教育支援教室やひきこもり児童生徒の利用など、不登校等の対策も推進されている。

○図書館の書籍をこども未来館に配置し、定期的に交換を行うなどの連携を実施している。



## ■ 利用者の傾向・反応

### ◆ 利用実績

- ・別紙「平成 29 年度児童館利用状況」のとおり

### ◆ 利用者の状況

- ・異年齢児童が利用するため、安全で安心して利用できる施設を求める声がある。
- ・指導員が見守りを実施することにより、特に大きな問題は発生していない。
- ・石狩市は路線バスがメインの交通手段であり、夏場は自転車、冬場はバスを利用することが多く、特に冬場はバス待ちの高校生が増えている。

## ■ 特色ある取り組み

### ◆ 子ども会議

- ・小学 3 年生から高校生までで構成され、自分で考え行動し、自治できる子どもたちを育てていくことをめざしている。
- ・スペシャル縁日やこどもまつりなど、行事の企画や日常のルールの検討などを行っている。

### ◆ スタジオ会議

- ・文化活動室（スタジオ）を利用する中学生・高校生のダンス・ハンドグループで構成される会議で、施設や楽器・機材の使い方を考えたり、ライブ活動の企画を行っている。

## ■ 今後の課題

○子どもの自主的な活動ができる環境づくり。

○子どもの視点や意見が、運営や活動に活かせる取り組みや、ソフト事業の充実・拡大を図り、多くの異年齢児童に利用される安全・安心な施設づくり。

○保護者や地域住民、学校等との情報交換などによって、家庭・地域・学校等の関係機関との強固な連携・協力体制を構築する必要がある。

## 【主な質疑応答】

- ◆ (Q) 施設の建設にあたっての市民会議の成果は。
  - (A) 学識経験者などを中心に 11 名で構成され、6 回の会議をおこない、施設整備基本方針を示した。
  
- ◆ (Q) 児童等へのアンケートの主な回答内容は。
  - (A) 回答内容としては、①飲食可能なスペースの設置 ②中高生も利用できるような体育館の整備 ③防音・音響設備のある部屋の設置 などであった。

## 【所感】

こども未来館は、子どもたちの健全育成のために、総合的な機能を持つ大型の児童館と位置付けている。小学生から高校生までの児童生徒が、自由に来館し利用することができる。館内には、乳幼児と保護者が集う子育て広場や、登録制の放課後児童会を併設しているのが特徴的である。

学校や家庭とはまた違った場所、子どもたちが自分で楽しさを発見し、それぞれ成長していく場所であると感じた。そして、子どもたちの個性を十分に尊重している取り組みにも感動した。

# 《 小樽市総合博物館 》

小樽市総合博物館は、平成 19 年 7 月、旧小樽交通記念館に、小樽市博物館と小樽市青少年科学技術館の機能を統合し、開館。小樽市の歴史と自然、北海道の交通史、科学技術をテーマに、さまざまな活動を展開している。

施設は、本館と運河館の 2 館あり、徒歩 20 分ほどの距離にある。

## ■ 企画展

### ◆ 本館で開催中

企画展「松前神楽—小樽での伝承と今」

2018 年 9 月 22 日（土） ～ 12 月 2 日（日）

### ◆ 運河館で開催中

運河館トピック展「史上初公開！タカシマアイヌを描いた絵巻物・前期」

2018 年 10 月 6 日（土） ～ 11 月 16 日（金）

## ■ 鉄道展示室

◆ 明治期の手宮駅構内のパノラマ模型や蒸気機関車のナンバープレート、時刻表、車両模型などの資料を展示している。

◆ 明治初期に、小樽と内陸の産炭地とのあいだに敷かれた「幌内鉄道」建設に関する展示もある。

## ■ 屋外に鉄道車両展示

- ◆ なじみのある車両から普段あまり見られない除雪用の車両など多種多様な鉄道車両を展示している。
- ◆ 圧巻は“アイアンホース号”（夏期のみ）  
北海道で最も古い動態保存の蒸気機関車。重要文化財の「転車台」を使った方向転換は必見。

## ■ 利用案内

- ◆ 開館時間 : 午前 9 時 30 分～午後 5 時
- ◆ 休館日 : 毎週火曜日（祝日の場合は翌平日）  
年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）  
※上記以外に臨時休館する場合があります
- ◆ 入館料金 中学生以下は無料

普通入館料	本館	本館	本館・運河館共通
	夏期	冬期	
一般	400 円	300 円	500 円
高校生及び 市内在住の 70 歳 以上の方	200 円	150 円	250 円

- 団体利用（20 名以上）の方は 2 割引。
- 障害者手帳をお持ちの方、及びその介護者は無料。
- 特別展などの場合には、別途特別料金を設けることがある。

## ■ 関連施設

- ◆ 小樽市総合博物館 運河館（本館より徒歩約 20 分）  
小樽の歴史、自然について約 2000 点の資料を展示。
- ◆ 小樽市手宮洞窟保存館（本館より徒歩約 2 分）  
約 1600 年前の人々が刻んだ壁面彫刻が描かれている。国指定史跡。